

## カリフラワー

「ロマネスコ」「さんごしょう」等は「カリフラワー」に適用のある農薬を使用すること。

—— 発病・加害時期  
 == 発病・加害最盛期

作型・病虫害名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
夏	まき	①							●	▲	——	——	■
夏	まき	②	■						●	▲	——		
ア	オ	ム	シ							——	——	——	——
コ		ナ	ガ	——						——	——	——	——
ヨ	ト	ウ	ム							——	——	——	——
ハ	ス	モン	ウ							——	——	——	——
ハイ	マ	ダ	ノ	メイ	ガ					——	——	——	——
ア	ブ	ラム	シ	類						——	——	——	——
ネ	キ	リ	ム	シ	類					——	——	——	——

## アオムシ

### 留意事項

- 1 アオムシに対する薬剤の効果は高いのでコナガ、ヨトウムシ類などと同時防除を行う。

### 防除方法

- 1 下記の薬剤を、かん注処理する。

- ・ [ベリマークSC](#) 28

【400倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5~4L） 育苗期後半~定植当日/1回】

- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1000~2000倍 3日/3回】

- ・ [グレーシア乳剤](#) 30 【はなやさい類 2000~3000倍 7日/2回】

- ・ [ディアナSC](#) 5 【2500~5000倍 前日/2回】

- ・ [BT剤](#) 11A （IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照）

## コナガ

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 あぶらな科野菜を加害するほかナズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウなどのあぶらな科雑草にも寄生する。
- 3 セル成型苗では、定植前にかん注処理すると省力的に防除できる。

#### 防除方法

- 1 下記の薬剤を、かん注処理する。

- ・ [ベリマークSC](#) 28

【400倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） 育苗期後半～定植当日/1回】

- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1000～2000倍 3日/3回】

- ・ [グレースシア乳剤](#) 30 【はなやさい類 2000～3000倍 7日/2回】

- ・ [アディオン乳剤](#) 3A 【2000倍 3日/5回】

- ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 3日/2回】

- ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日/2回】

- ・ [BT剤](#) 11A（IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照）

## ヨトウムシ・ハスモンヨトウ

#### 留意事項

- 1 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

#### 防除方法

- 1 下記の薬剤を、かん注処理する。

- ・ [ベリマークSC](#) 28

【ハスモンヨトウ 400倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） 育苗期後半～定植当日/1回】

- 2 発生初期、若齢幼虫を対象に、下記の薬剤を散布する。

- ・ [グレースシア乳剤](#) 30 【はなやさい類 2000～3000倍 7日/2回】

- ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 3日/2回】

- ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日/2回】

- ・ [プレバソンフロアブル5](#) 28 【ハスモンヨトウ 2000倍 前日/3回】

- ・ [BT剤](#) 11A（IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照）

## ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

#### 留意事項

- 1 だいこん等あぶらな科作物を加害する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 7～10月が高温少雨の年に多発する傾向がある。
- 3 食入前の防除に努める。

#### 防除方法

- 1 育苗中の苗は寒冷しゃ等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 定植には健全苗を使用し、本ぼへの幼虫の持ち込みを防ぐ。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を薬液が芯葉に届くよう丁寧に散布する。
  - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日／2回】
  - ・ [エルサン乳剤](#) 劇 1 B 【1000～2000倍 14日／2回】
  - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【2000～4000倍 前日／2回】

## アブラムシ類

#### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【2000倍 7日／3回】
  - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2000～3000倍 3日／5回】
  - ・ [ウララDF](#) 2 9 【2000倍 14日／2回】

## ネキリムシ類・ケラ

#### 留意事項

- 1 ダイアジノン粒剤5の成分ダイアジノンを含む農薬の総使用回数は、合計2回以内（粒剤の生育期の処理は1回以内）。

#### 防除方法

- 1 は種時または、定植時に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) 1 B  
【4～6kg／10a 全面土壌混和または作条土壌混和 は種時または定植時／2回】  
【ネキリムシ類 6kg／10a 土壌表面散布 定植時／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。